

# 福津心しぎ発見



## 争いを収めた六人士の歌碑

白石浜海水浴場には「骨くたく 思いもしぶきと 消へさりぬ 白石浜の 今日の夕 映え」という歌が刻まれた歌碑が建っています。今月は「六人士の歌碑」を紹介し



▲歌碑は6人をしのんで昭和43年に建てられました

江戸時代初期の寛永17年（1640年）頃、津屋崎浦と勝浦浜で漁場をめぐる争いが続いていました。津屋崎浦の代表が漁場を広げてほしいと藩に直訴したところ、6人の代表者が300貫（1125kg）の巨石を渡の俵瀬たわらせから勝浦浜方向に運び、石を落とした場所を境界とすることにしました。6人は巨石を担いで懸命に歩きました。ところがいつまでも石を落とさないで、驚いた奉行が巨石を吊っていた綱を切つて制止に入り、約100年の争いに終止符が打たれました。これにより津屋崎浦の漁場は1kmほど広がりしましたが、6人は直訴の罪で処刑されました。歌碑に刻まれた歌はそのうちの一人、浦庄屋の佐兵衛が詠んだものです。そして、この歌碑から海岸を勝浦浜方面に行くと、6人が運んだとされる巨石が残されています。また、その東側の松原にある六社宮に6人が祀まつられています。

